鳥類　＜スズメ目　ヤイロチョウ科＞　　愛知県：絶滅危惧ⅠA類（繁殖）・絶滅危惧Ⅱ類（通過）　（国：絶滅危惧ⅠB類）
AVES　＜PASSERIFORMES　PITTIDAE＞　　AICHI：CR（Bre）・VU（Pas）　（JAPAN：EN）

ヤイロチョウ　*Pitta nympha* Temminck et Schlegel

【選定理由】

繁殖期に東三河山間部の数ヶ所で確認されるがその数はごく僅かであり、ほぼ毎年継続して確認される場所はさらに限られる。県内で繁殖期に本種が生息している環境は、深山幽谷の急峻な地形に限られている。条件の揃った環境は県内でもごく僅かであり、僅かな開発でも消失する環境である。

【形　態】

全長 18cm。頭が大きく、体形は寸詰まりに見える。額から後頭は褐色で黒い頭央線がある。眉斑は黄白色で、過眼線は太く黒い。背と肩羽は緑色で、腰と上尾筒は青色。尾は黒く、先端は青色。喉から腹、脇は黄白色。腹の中央と下尾筒は赤色。外翼部は黒く、初列風切基部に白斑がある。内翼部は緑色で、青色の斑がある。

静岡県, 2003 年 6 月 21 日, 杉山時雄 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

ごく少ない夏鳥として山地に渡来して繁殖するが、繁殖期を通して生息が確認されているのは、東三河の山地のごく一部に限られている。

【国内の分布】

夏鳥として主に本州中南部、四国、九州に渡来するが、近年分布範囲が北へ拡大している傾向がみられ、東北地方でも囀りや姿の確認例が増えている。

【世界の分布】

日本と台湾および中国南部で繁殖し、カリマンタン島で越冬する。

【生息地の環境／生態的特性】

県内では繁殖期、深山の急峻な地形にある落葉広葉樹林や針広混交林に生息する。ポポピー、ポポピーとか、ホッヒー、ホッヒーなどと囀り、ミミズ類、ムカデ類、クサカゲロウ類、サワガニなどを捕食する。陽が当たらず薄暗い地上をホッピングで走り廻って採餌するが、その場合も多彩で美しい体の色が全く目立たないことが多い。

【現在の生息状況／減少の要因】

渡りの季節から繁殖初期である 5 月下旬から 6 月初旬に、西三河や東三河の比較的標高の低い場所で囀りが確認されることも希ではない。こうした場所の中には、他県で本種が繁殖している環境に似ている場合もあるが、毎年同じ場所で確認される例はほとんどなく、繁殖の可能性は低いと思われている。いずれにしても現在の県内全域で繁殖期の確認数は極めて少なく、生息する環境は過去の道路整備や開発事業等によって容易に消失してきた環境である。全国的には分布の北上傾向がみられるようであるが、現在の愛知県では繁殖期の生息数に増加傾向はみられない。

【保全上の留意点】

本種が繁殖期に確認されている場所は限られており、こうした環境に手を加える場合は事前に十分な検討が必要である。工事が必要となった場合には本種をはじめ、こうした環境に生息する野生生物に十分配慮した工事が必要となる。

【特記事項】

本種は、種の保存法で国内希少野生動植物種に指定されている。

【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, p.130. 文一総合出版, 東京.

（高橋伸夫）